

Close Up

クローズアップ 福祉安全運転

熊本県内の2つの自動車教習所が Hondaの自操安全運転プログラム導入へ

Hondaは、高次脳機能障がいを持つ方がクルマの運転を通して社会復帰されることを支援するため、自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）を開発した。自操プログラムはリハビリテーション中の方が運転を再開する際の評価や訓練をサポートすることを目的に、実車による体験を重ねることで、運転基礎感覚（方向・速度・車両・位置・距離・直進）と運転基本操作（走る・曲がる・止まる）を確認できるようになっており、全国7ヵ所にあるHondaの交通教育センターで2012年から展開している。こうした場と機会の提供の拡大をめざし、自操プログラムのノウハウを各地域

の自動車教習所へも提供している。熊本ドライビングスクール（熊本県熊本市）と菊池自動車学校（同・菊池市）は自操プログラムを導入することを決め、2校の教習指導員6名が交通教育センターレインボー熊本（同・大津町）で研修を受講した。両校の代表取締役である永田佳子さんは「Hondaの自操プログラムには以前からたいへん興味がありました。運転の再開をめざす方からの問い合わせや相談も増えており、これから自動車教習所が取り組むべきことの1つだと考えていました。地方では運転を再開することが社会復帰には必要なことです。私たちは、そのための支援

という重要な役割を果たさなければいけないと感じています」と、自操プログラム導入の背景を説明する。

最初は座学。講師を務める黒澤明良インストラクターが、これまでの交通教育センターレインボー熊本での実施例を紹介しながら、病院側と必要なやりとりや受講中の患者との接し方などについて解説した。

その後、教習指導員が患者役となり、自操プログラムを体験。今回は両足が不自由な方が両手だけで運転するための補助装置、右半身が不自由な方が左手・左足で運転するための補助装置を取り付けた車両を使用する。各車両で狭路走行やパイロンスラローム、進路変更、急制動などの課題に取り組んだ。黒澤インストラクターはこれらの課題の中で、運転者のどのような挙動を確認すべきかを伝えた。また、「受講される方は長期間、運転から遠ざかっていることが多いので、こまめに『疲れていませんか』と声をかけるようにしましょう」とアドバイスした。

そして最後に「自動車教習所の皆さんにも

協力していただくことで、より多くの方が運転を再開できるようになると思います。私たちとともに高次脳機能障がいを持った方の社会復帰を支援していきましょう」と黒澤インストラクターが締めくくり、研修は終了した。

研修を終えた熊本ドライビングスクール副管理者 山本秀治郎さんは「ご自身で気づけないところをわかっていただけるよう、私たちがサポートしていくことが大切だと感じました」と話す。また、菊池自動車学校副管理者 原田良一さんは「私たちのサポートで運転再開できる方が一人でも多くなればと思います。責任は重いですが、やりがいのある仕事だと思います」と語った。高次脳機能障がい等で運転を中断した方が運転を再開したいというニーズは全国各地にあり、これにこたえていくためには自動車教習所の協力が必要不可欠である。自動車教習所で自操プログラムを実施できるように、Hondaは今回のような研修の開催を通じサポートしていく考えだ。



患者の状態に合わせて、どのような課題を設定すべきか、教習指導員に説明する黒澤インストラクター



パイロンスラロームでは一定の速度を維持しながら適切なハンドル操作ができるかを確認



進路変更では後方の安全を確認した上で、合図を出しハンドルをきくという正しい運転ができていないかを確認



研修では運転補助装置が取り付けられている車両を使用



教習指導員は患者の立場で自操プログラムを体験



熊本ドライビングスクールおよび菊池自動車学校代表取締役 永田佳子さん



熊本ドライビングスクール副管理者 山本秀治郎さん（左）、菊池自動車学校副管理者 原田良一さん（右）

Safety Info.

インフォメーション①

リハビリテーション向け新ソフトを開発 軽度な半側空間無視の評価への活用



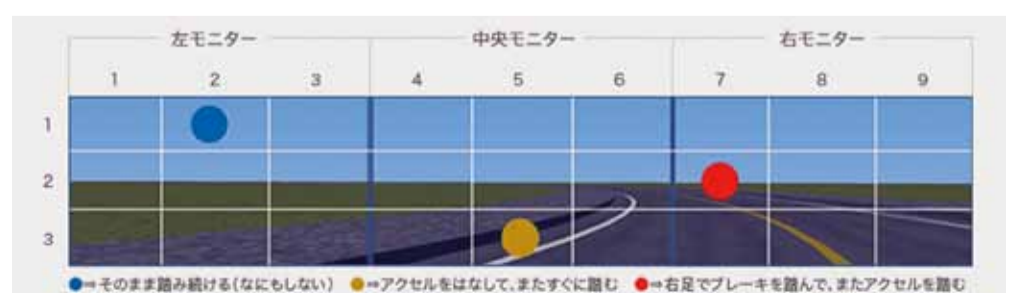
多くの病棟施設に導入されている「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」

病院内などでリハビリ中の方の運転に対する評価や訓練を支援するため、Hondaは四輪ドライビングシミュレーターの技術を活用して、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト（以下、サポートソフト）」を開発。2012年の発売以来、多くの病棟施設がサポートソフトを導入し、実車による実技訓練と並行して運転を再開できるかどうかの判断材料として活用している。

そして昨年11月、このサポートソフトに軽度な半側空間無視※を検出する新ソフトを追

加した。従来通り3面ディスプレイを使用しながら、3種類のマークを各指定位置に表示し、あらかじめ決められたコースを走行し検査。マーク表示内容における正解率および誤反応回数と反応時間の平均値、道路走行車線からのズレ等を数値化し、よりきめ細かな結果を帳票として出力が可能となり、半側空間無視を評価できるようにしている。

※半側空間無視＝高次脳機能障がいの1つで、目に見える空間の左側半分または右側半分にあるものを無視してしまう症状。



軽度な半側空間無視を検出するソフト（画面はイメージ）。3種類のマークを画面内の27区画にランダムに表示する